

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
	経済学入門Ⅱ	1年	講義	2	大石和博
授業概要 経済学入門Ⅱはシテライフに関連するさまざまな要素を理解するために必要な科目です。1年次において最も重要な科目の一つであり、必修科目となっています。受講者が経済学を各分野に応用することを念頭において、個人や企業の意味決定がどうモデル化されているかを説明します。とくにミクロ経済学に焦点を当て、生産可能性フロンティア、需要曲線、供給曲線といった基本的な分析用具の使い方について丁寧に解説したいと思います。					
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> •経済学の基本的な用語(希少性、トレード・オフ、機会費用、効率性など)を説明することができる。(DP3) •需要曲線及び供給曲線などを用いて経済分析を行うことができる。(DP3) 					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	経済学の世界ようこそ！	講義概要、第1章 希少性の世界(トレードオフ)			
2	経済学の十大原理(1)	第1章 人々はどのように意思決定するか			
3	経済学の十大原理(2)	第1章 人々はどのように影響しあうのか			
4	経済学の十大原理(3)	第1章 経済は全体としてどのように動いているか			
5	経済学者らしく考える(1)	第2章 科学者としての経済学者			
6	経済学者らしく考える(2)	第2章 経済モデル(フロー循環図、生産可能性フロンティア)			
7	経済学者らしく考える(3)	第2章 政策アドバイザーとしての経済学者			
8	経済学者らしく考える(4)	第2章 補論 グラフの用法:概観			
9	相互依存と交易からの利益(1)	第3章 現代経済の寓話			
10	相互依存と交易からの利益(1)	第3章 比較優位の原理			
11	需要と供給の作用(1)	第4章 完全競争、価格と需要量との関係			
12	需要と供給の作用(2)	第4章 価格と供給量との関係			
13	需要と供給の作用(3)	第4章 応用問題			
14	需要と供給の作用(4)	第4章 需要と供給を組み合わせる			
15	需要と供給の作用(5)	第4章 比較静学分析			

準備学修(授業外の自己学修)

最もよい準備学修は新聞を読むことです。特に、『日本経済新聞』をできるだけ毎日読むようにしてください。

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、提出物(40%程度)、期末試験(60%程度)で評価します。ただし、遅刻、欠席および受講態度不良は減点の対象となることがありますので注意してください。

観点	S	A	B	C
経済学の基本的な用語を理解し、教科書レベルの問題を正しく解答することができる。	経済学の基本的な用語を「十分に」理解し、教科書レベルの問題を9割以上正しく解答することができる。	経済学の基本的な用語を「ほぼ十分に」理解し、教科書レベルの問題を8割以上9割未満正しく解答できる。	経済学の基本的な用語を「かなりの程度」理解し、教科書レベルの問題を7割以上8割未満正しく解答できる。	経済学の基本的な用語を「ある程度」理解し、教科書レベルの問題を6割以上7割未満正しく解答できる。
経済分析を行うことができ、教科書レベルの問題を正しく解答することができる。	数値例を用いて「正確に」分析でき、教科書レベルの問題を9割以上正しく解答することができる。	数値例を用いて「ほぼ正確に」分析でき、教科書レベルの問題を8割以上9割未満正しく解答できる。	数値例を用いて「かなりの程度」分析でき、教科書レベルの問題を7割以上8割未満正しく解答できる。	数値例を用いて「ある程度」分析でき、教科書レベルの問題を6割以上7割未満正しく解答できる。

教科書

下記の教科書を使用します。

N. グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編(第3版)』東洋経済新報社、2013年、税込み 4,320円。

履修上の注意・学修支援

特になし